

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成しその中に密着型サービスの役割が反映されている。管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。	○	独自の理念を作成し地域の中でその人らしく暮らせるよう地域の行事などに積極的に参加している。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて日々のサービス提供場面に反映させられるよう取り組んでいる。	○	全職員に周知はしているが、職員によって理解力の違いがあり徹底されていないので今後も継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に理念を掲示しているが、見やすい場所とはいえない。パンフレットや説明文書等には記載していない。事業所利用時に理念の説明は行っていない。地域の人に対して説明会などは行っていないしホーム便りにも記載していない。	○	理念の浸透のための取り組みがほとんど行っていないのでパンフレットや説明文書、ホーム便りへの記載をし利用者や家族へ説明していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方たちには、日頃より挨拶を交わし交流を図っている。開設時に近隣の方へ挨拶に行き事業所を理解していただくために見学に来ていただいた。認知症の予防普及活動への職員派遣については機会がなく取り組んでいない。実習生やボランティア等の受け入れについてもまだ機会がなく取り組んでいない。	○	地域の町内会や民生委員老人クラブや商店等に事業所を理解してもらうための交流を図ってきたい。外部の人の受け入れや認知症の予防普及活動への職員派遣を行い、共に学びながら事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の狙いや活用方法についてはミーティング時に説明し全職員に周知している。外部評価についてははじめてのことなので全職員が一丸となり評価の狙いや活用方法・自己評価などに取り組んでいる。外部評価については真摯に受け止め改善策について検討したいと考えている。	○	評価の結果について今後のより良いケアサービスの提供につなげる為改善策について検討していく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい積極的に参加してもらっている。司会者は皆の意見を聞きだすために指名するなど配慮している。外部評価については報告してあり結果についても報告しサービスの質の確保と向上につなげていく予定。	○	会議の開催日時を年間で計画を立てると共に事前に案内通知を送り出欠の有無を電話で確認している。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場へホームのパンフレットを配布している。	○	外部評価については特に今回初めてなので報告する予定。今後も利用者の利便性の向上や生活の質を高めるために行政との連携を図っていく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今までのところ外部研修の機会がないが機会があれば参加し理解を深めていきたい。管理者と一部の職員は権利擁護に関する制度について理解している。利用者や家族等に権利擁護に関する制度について情報提供や利用の支援等を行えばならないような方はいなかった。	○	今後利用者や家族等に権利擁護に関する制度について情報提供や利用の支援等を行えばならないような方がいれば支援していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について説明はしているが、積極的な研修等はまだ行っていない。管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。高齢者虐待を発見した場合の取り決めは特に決めていなかったが、発見した場合は直ちに止めさせ施設長の支持を仰ぐことにしている。	○	今後外部研修へは、積極的に参加し伝達講習などで全職員に徹底していきたい。虐待を発見した場合の対応方法について全職員が理解している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族等に事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。利用者や家族等の疑問や意見を引き出すために、以前に質問のあった内容について説明したり表情や視線など注意深く観察している。現在のところ契約内容の改定はない。	○  今後も退居の際には、契約に基好き利用者や家族等に説明を行い、同意を得ている。又、退居先の情報提供を行う等の支援を行っていく。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時声かけを行い生活上の問題点がないか聞き取りを行っている。利用者の言動を注意深く観察し本人の不満や意見を察するよう取り組んでいる。利用者が外部に意見等を話せる機会は作っていない。今まで苦情は特にないが相談の内容によって速やかに対応している。	○  今後も利用者が意見や苦情を表出し運営に反映させていけるよう取り組んでいく。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態について定期的な報告はしていないが、変化や問題のあったときには必ず報告している。金銭状況の定期的な報告はしていないが職員の異動等利用者へのサービス提供体制に変化があった時に今までは特に報告はしていない。	○  今後、利用者の暮らしぶりや健康状態及び職員の異動等利用者へのサービス提供体制に変化があった時の報告は検討していく。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を表せるよう努めているが、現在のところ大きな苦情等は来ていない。	○  苦情受付窓口は継続的に家族等に周知し家族等から出された意見や苦情等を日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っていく。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者が、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会は設けていない。	○  今後、運営者や管理者と検討していきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。夜間にケアが必要な利用者の対応については別の職員が病院の付き添いを行うなど体制を整えている。職員の急な休み等に対しては、非常勤に延長勤務を依頼したり休みの職員に出勤を依頼したりしている。	○  体制的には整っていないため、検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限に抑えるために職場環境を整え努力をしている。新しい職員を配置する際には、利用者には十分な説明をしているとはいえない。	○	新しい職員への引継ぎや利用者への説明を丁寧に行っていききたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識しているが、具体的化するための方針は示されていない。研修計画は作成しているが、職員の個々の力量や経験に対応しているとはいえない。スーパーバイザーについては確保していない。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流や連携はあまりないが、つがる市の同業者と交流を図り日々のサービスの向上や職員育成に努めている。	○	今後は近隣や青森市内の同業者とも交流を図りサービスの向上に取り組んでいきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいるが十分ではない。	○	職員のストレス軽減のために運営者と検討していききたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	○	職員のやりがいや向上心が持てる職場環境になるよう運営者と検討していききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること不安なこと等をよく聞く機会を作り信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。	○	今後も相談を受ける際には利用希望者と家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、本人と家族のニーズを把握し必要としているサービスを見極め他のサービスが必要と思われる時は他のサービスを利用できるよう連携を取り支援している。	○	今後も取り組んでいく。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら支援している。	○	特にサービスの利用開始にあたっては混乱することのないよう地域に開かれたホームづくりを行い、見学だけでなく気軽に遊びに来れるような関係をつくっておき安心して入居できるよう支援していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と喜怒哀楽を共感し理解するよう努めており利用者には得意分野で力を発揮してもらう等支えあいながら生活している。	○	今後も取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話連絡などのときに情報交換を行い十分に家族の気持ちを受け止め利用者を共に支える関係を構築するよう努めている。	○	今後も取組んでいく。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、双方への思いを把握し家族との関係が途切れない様定期的にホーム便りを発行したり、面会を促したり、電話連絡などをして働きかけを行っている。	○	今後は、定期的に家族と情報交換を行い利用者と家族の絆を大切にしていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所について把握している範囲で関係が途切れないよう支援しているが、情報が十分とはいえない。	○	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所についてもっと情報を収集するため、家族から聞いたり昔の写真などを持ってきてもらい関係継続の支援をしていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活において楽しく生活してもらうために利用者同士の関係が大切なことは十分理解している。利用者同士の関係を把握し持っている力、個性を生かしてもらうことによりより良い人間関係作りにつなげる働きかけを行っている。	○	利用者同士の関係作りは大変難しいものがあるが、これからも真剣に取り組んでいきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時点で他の機関との連絡調整を図ることはしているが、その後はそちらの介護支援相談員にまかせている。	○	今までの所、契約終了後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族はいなかったが今後そのようなケースがあった場合は関係を断ち切らないで支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を把握するよう努め、さらに家族や関係者等から情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に個々の生活歴やライフスタイル等を家族または関係者から把握するよう努めている。	○  本人の過去の写真を一緒に見ながら、思い出を語り合い、生活歴の把握に努めたい。
32	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活（暮らし）アセスメントシートにおいて、一日の暮らし方や生活リズムを把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れたうえでの、カンファレンスを開き、介護計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの見直しを行い、入居者や家族の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活（暮らし）アセスメントシートに日々の暮らしの様子や身体状況、気づきを具体的に記録し、介護計画の見直し時に活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族からの要望に応じ、外出支援を行っている。	○	入居者、家族及び地域からのニーズを把握し、自主サービスの開発・実施を検討したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事企画の際、幼稚園や保育園、地域の団体に参加を呼びかけたり、運動会や地域の行事に参加している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人及び家族の意向を踏まえ、他事業所のケアマネジャー等と連携を図っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	判断できない事例について相談し対応する体制を整えている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族の協力が不可欠であることを伝え、ダメージが最小限になるよう努めている。 移行先で本人が混乱することのないよう習慣やこれまでのケア方法を継続できるよう情報提供している。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の言動を否定したり拒否せず、その時点で何を必要としているのかを常に考えたケアを行っている。 入居者の目の前で問題点を話さないようプライバシーに配慮して業務を行っている。 個人情報は事務室内に保管し、スタッフが帰宅後外部に漏らさないよう守秘義務を徹底している。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居時に入居者・家族から希望や嗜好を把握している。 水分補給時、飲みたいものを自己決定できるよう促している。</p>	○ 週に1回、入居者が材料からメニューを考え、好きなものが食べられるよう支援していきたい。
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>訴えがあった際は、業務を後に回し対応しており、手が離せない場合は、他のスタッフがフォローできる環境を整えている。 居室で食事を摂りたい方、ゆっくり食事を摂りたい方等のペースが乱れないよう本人及び他入居者のフォローを行っている。</p>	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人が着たい衣服を選んでいただき、足りないものは家族に持参していただいたり、一緒に購入しに行っている。 散髪については、馴染みの店に連絡・送迎し、希望がない方は近隣の理容院に依頼し訪問していただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が苦手なものを把握し、別メニューで補っている。 調理の準備や後片付け等、入居者各自に合った役割を担っていただいている。 食べこぼしがある入居者の場合は、さりげなくサポートし、他入居者へのフォローも行っている。	○	スタッフが一緒に席に着き、一緒に食事を摂ることでより楽しく食事時間を過ごせるよう取り組んでいきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	玄関を喫煙場所とし好きなときに喫煙していただいている。火災の原因となりうるライターは事務室で管理している。 冷蔵が必要な物品は本人の了承を得て調理室に保管している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表に記録・把握している。 失禁時は、他の入居者に気づかれないようさりげなく対応している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否時は、前向きになるような声がけをし、少し時間を置いてから再度促すようにしている。 自分のペースで入浴していただけるよう急かすような声がけはせず、出来ない部分のみ介助している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない入居者に対して、付き添ったり温かい飲み物を提供し入眠しやすいよう対応している。 眠剤の服用については医療機関と相談し調整を行っている。	○	日中の散歩や体操による運動を促し、適度な疲れを感じていただくことで、夜に眠りやすくなるよう支援していきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やり、花壇・畑の手入れ、食事準備等、入居者の生活歴、力量に合った役割を見極め、担っていただいている。	○	男性入居者が楽しめるような将棋、花札等遊べるものを日々のケアに取り込んでいきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら管理できる方には、家族の希望等に配慮し管理していただいている。 買い物時に支払いができる方には行っていただいている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	購入したいものがあれば、その都度一緒に出かけるようにしている。 天気の良い日であれば、近場に外出するよう努めている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から希望があった場合は、家族と連絡・調整し、実現できるよう支援している。 家族の都合がつかない場合は、他入居者と一緒に外出するようにしている。	○	一人ひとりの希望を把握し、家族も参加できるよう行事な行事を企画していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際は、封を切らず入居者が最初に目を通すようにしている。 電話利用は自由であり、出来ない部分は介助している。他人に聞かれたくない内容の場合は、事務室の電話を使用していただいている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は自由。訪問時は声がけ及び飲み物を出し、ゆったり過ごせるような雰囲気作りを行っている。	○	家族から宿泊希望があった場合の体制について、今後検討したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながる行為を勉強会を開催し全職員が把握し、拘束のないケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は設置していない。 自動ドアを開ける事ができる方が多く、散歩に出たいと訴えがあれば引き止めず、自由に散歩していただいている。	○	無断外出に備えて、近隣・警察の協力を得るよう努めていきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、入居者を見守りやすい場所に居て、入居者の様子を把握している。 居室内は入居者の状態に合わせてナースコールを設置している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は入居者の状態に合わせて、目に付かない場所に保管している。	○	入居者の状態に合わせて、保管や管理方法を見直し、マニュアルを整備する必要がある。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、再発防止に向けた話し合いを行い、全職員に周知している。 報告書は全職員が常時確認できる場所に整理し保管している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を整備し、定期的にテストしている。	○	定期的に全職員が応急手当や救急救命の訓練を行う必要がある。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、日中・夜間を想定した避難訓練を年2回行っている。	○	災害発生時に備えて、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品等を用意する必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こり得るリスクを把握し、家族と話し合いのうえ、対応策を検討している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の異変の兆候を見落とさないよう、常に顔色や様子に注意を払うことが全職員に徹底されている。 変化や異変の兆候があった場合には記録に残すとともに全職員で共有し、必要に応じて救急体制の整っているかかりつけの医療機関に相談し対応している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全職員が常時確認できるよう整理しファイルに保管している。 飲み忘れや誤薬がないよう一日分を薬箱に整理している。薬の変更があった場合は連絡ノートで全職員に周知し、服薬による状態変化時は記録に残すとともに、医療機関に相談し調整している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳を提供したり、散歩や体操等で適度な運動を促し、自然排便できるよう努めている。 便秘がちな方には下剤を処方してもらい調整している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れを促している。 習慣により昼は磨かない方もいるので強制していない。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。 食事・水分摂取量はその都度シートに記入し一日の摂取量を体調チェック一覧表に記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	勉強会にて全職員に資料を配布し、対応方法を周知している。	○	現在感染症予防・早期発見・対応マニュアルを作成中である。
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具の清潔を保持するためのマニュアルを作成・周知し、それに基づいて実行している。 食材担当が余った食材を把握し、漬物や別のメニューにすることで無駄にしないようにしている。。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植え、明るくなるような雰囲気作りを行っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を置き、感覚を刺激するような雰囲気作りを行っている。 職員が穏やかに過ごすことで、入居者が不穏にならないよう努めている。 室内が眩し過ぎる場合はカーテンを調整し、夜間はテレビの音量を低くする等調整している。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの周囲にソファを置き、入居者同士で団欒できる場所を確保している。また、すぐ側にある和室で膝を伸ばしてくつろぐことができる。 入居者の喫煙場所を玄関に確保し、ライターは職員が管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具や箸等、馴染みの ものを持ってきてもらうよう家族に働きかけを行っ ている。 方角を気にする方に合わせ、ベッドの位置を変え ている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	臭いがこもらないよう事業所内は24時間換気 を行っている。 調理室に温・湿度計を設置し、入居者の希望に応 じてこまめに温度調整を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	転倒につながるものは通路に置かず、手すりは廊 下・居室等要所に設置している。 流し台・洗面所は高齢者に使いやすい高さの ものを設置している。 車椅子は必要に応じて使えるよう用意している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの場所を分かりやすくするため、通路から 分かるよう表示している。 浴室扉に分かりやすいような暖簾を掛けている。 居室が分からなくなる入居者の場合には、本人・ 家族の了承を得て、通路から分かるよう表示し ている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	花壇、畑を活用し、馴染みの仕事を通じ、生き がいを持って生活できるような環境を整えている。	○	玄関先またはベランダにベンチを設置し、天気 の良い日にくつろげる場所を確保したい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)